

えことぴい通信 えことぴい 長崎

えことぴい長崎 会員情報誌 第6号



『えことぴい長崎』1年をふりかえって

2006年が終わろうとしています。それは、新しい年の始まりにつながっています。

昨年12月、ネットワーク『地球村』の一員として、「自立」するために、ながさき『地球村』は『えことぴい長崎』に生まれ変わりました。

ながさき『地球村』の頃から大切にしてきた「みんなのミーティング(略してMM)」や「環境学習会」を毎月開催してきました。それに加えて、2ヶ月に1回、この通信を発行し、第6号を迎えることができました。現在、200人を超す方々が、この通信を読んでくださっています。ありがとうございます。

そして、私たちが一番大切にしている、原点でもある高木善之さんの講演会を、2月18日(日)に開催することとなりました。

“美しい地球と平和な世界を子どもたちに”バトンタッチするために、新しいテーマであるこの講演会を成功させたいと実行委員一同がんばっています。

そこで、今回、ふしつけは承知の上で、この通信を「高木さんの講演を聞いたことがあるすべての方々」に送らせていただきました。ご了承ください。

そして、これまで通信を読んでくださった方には、当日精算できるチケット(1,000円)を1枚入れさせていただきました。あつかましいことは承知していますが、お一人でも多くの方に聴いていただきたいという事務局の思いであると受け止めていただけるとありがたいです。

都合によりご参加いただけない場合は、お知り合いの方にお声をかけていただければ、うれしい限りです。(※当日精算以外に、参加費を請求することは決してありません。)

~~~~~  
☆「素敵な口ハスライフ！」講演会実行委員大募集！

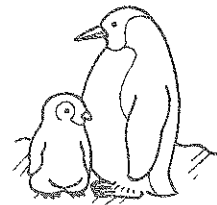
講演会を大成功させるために、あなたの参画をお待ちしています。

具体的には、

前売りチケットを売ってくださる方

当日、準備・運営のかかわってくださる方

よろしく願います。



ご連絡は、上原まで メール: uehara-a@nifty.com または、電話095-879-0515

~~~~~

「大地といのちの会」の吉田俊道 です。

今から約12年前、県の農業改良普及員の仕事に行き詰まりを感じていたころ、ネットワーク『地球村』の高木善之さんとの出会いがありました。大変ショックを受け、高木さんの話をもっと聞きたくて、広島や福岡まで出かけました。

そして、今の地球環境、教育、平和などの様々な悲しみが、一つの根源的なことを解決すれば、すべて解決できることを知りました。「これしかない！」未来にかすかな希望が見えました。

また、人に伝える方法、人が動くための活動のあり方など、本当に多くの大切なことを学ばせていただきました。

ほどなく私は県を退職し、日の出前から夜までひたすら有機農業を実践しました。約3年でそれが軌道に乗り出したころ(=今から約7年前)、この「えことびい長崎」の前身である「ながさき『地球村』」のたくさんの仲間の助けで、佐世保で市民活動を始めました。

大地といのちの会は、「生ごみリサイクル元気野菜作り」と「命をいただく食育の普及」という具体的な実践を勧めていますが、この活動を通して求めているもの=いろんな社会問題の根源に迫るような深い目標について、私はいつも見失わないように心がけています。

だから国内の他の生ごみリサイクル活動団体と交流すると、ちょっと違った視点を持つ私たちの活動にびっくりされますし、他の食育活動団体と交流しても、やはり見つめる場所が少し違うのです。

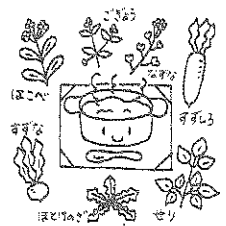
この違いこそ私たちがいつも本気で楽しく続けてこられた原動力ですし、これがあったから、生ごみ減量についても食育についても、私たちの活動は全国的に注目されるまでに広がって来たのだと思います。

今更ながら私の人生の転機に出会った、高木善之さん、赤峰勝人さん他、多くの師匠に感謝しています。

いよいよ1月28日は「第2回長崎の環をつなぐ食育祭」ですね。私はケチで、度量が狭く、よく食べますから、高木さんのように、生き方や価値観といった、人の心に直接響くような話は出来ません。でも、食の生産現場やおもしろい地球の循環の法則といった具体的な事実や方法は話せます。私の話を聞いたり実践したりした人の心の中に、私が自分自身に求めていることと近い思いが湧き上がってきたらいいなあ。そう願っています。

どうぞ皆さん、たくさんの人を誘って参加してくださいね。

※ 「第2回長崎の環をつなぐ食育祭」のチラシを3枚入れさせていただきました。あなたから周りの大切な方へ広めていただけませんか。よろしくお願いします。



崎田昭人さん「生かされ 生きて 被爆の実相を語る」講演会報告

吉田 政和



◆日時 10月22日(日) 18:00~20:00
◆場所 国立長崎原爆死没者追悼祈念平和会館 ラウンジ

語り部の崎田さんは、現在78歳、16歳のときに爆心地から1.6km離れた銭座町の自宅裏庭で被爆しています。

講演会は、原爆死没者追悼平和祈念館の厳な雰囲気の中、黙祷から始まりました。崎田さんは、力のこもった声で体験談を話し、参加者45名は真剣に耳を傾けてくれました。

彼の体験のすごいところは、原爆が炸裂しているところを目の当たりにしていることです。「洗濯をするため、水道端で水道の栓をひねると、地上500mの位置、オレンジ色をした太陽くらいの火の玉がポッカーと浮き上がった。次の瞬間、目もくらむような光が色とりどりに変化して顔面につきささる。アチッ、左の顔の皮膚が垂れ下がった。近くにがけがあり、2・3m横穴を掘ってあったので光に背を向けて向かったが、中には家具が一杯で先に進めない。背後から高熱の(推定1200~1300℃)光が襲って大やけどを負う。光は10秒ほど続いた。」

また、次の語りも印象的です。

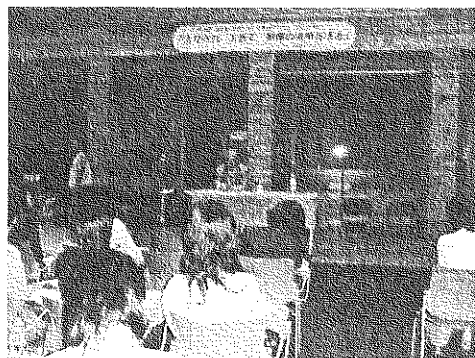
「原始雲で暗闇になり、この世の終わり、たった1人生き残ったと思った。一人では生きていけないと絶望。人を見たときには傷ついているのに『ああこの世に私と同じ人間がいたんだ。』と心の底から嬉しかった。」

臨時救護所で激しい原爆症で危篤状態になったときの、父親との再会は特に感動的です。「9月になってから父が来た。心配そうに『お前は何日も食べていない。おれより早く死ぬなよ。』日頭に一杯涙を溜めて言った。足の包帯は出血して10何キロも松葉杖をついて駆けつけてくれたのです。親心のありがたさを感じ、もう一度元気にならなければと気力を取り戻した。助かったのは奇跡的だった。」

ほかにも大切なエピソードがあるのですが略します。

彼の体験談は、聴くたびに感動し、核兵器廃絶への想いを強くすることができます。

お元気なうちに沢山の人に聴いていただきたいです。





平和な世界を子どもたちに

廣瀬方人氏講演「敗北を抱きしめて」

ジョン・ダワー博士の『敗北を抱きしめて』をもとに、日本の敗戦の問題とこれからの私たちの問題を考える講演会です。

既に、2回は終了していますが、3回目からの参加也大歓迎です。多くの方の参加をお待ちしています。

2006年11月11日（土）

1. 日米の関係と日本の近代国家としての歩み
黒船来航からマッカーサー元帥の日本到着まで
2. 日本人は敗戦をどう受け止めたか（さまざまな敗戦）
 - ①破壊された人生
 - ②美化された降伏
 - ③数字で見る敗戦

2006年12月2日（土）

3. 米軍占領下の日本
 - 政府の上の政府—上からの革命
4. 戦後の混乱を生きる
 - ①無節操（加藤芳郎の漫画）
 - ②国家から指図を受けずに自分で生きるとはどういうことか
 - ③戦争直後のベストセラー（ヴァンデ・ヴェルデ「完全なる結婚」
漱石「こころ」「それから」「門」）
5. アメリカは日本人をどのように見ていたか
 - ①猿人問の評価を改める
 - ②ラフカディオ・ハーンの著書から日本を知る（「東の国から」「心」）
 - ③マッカーサーの米国議会における証言
6. 日本人の閉鎖的な戦争観—犠牲者意識
 - ①「きけわだつみのこえ」
 - ②永井 隆の著書

2007年1月13日（土）

7. 天皇の戦争責任
占領軍、天皇を抱きしめる
8. 東京裁判—勝者が敗者を裁く
インドのヒル判事の判決における意見書







「ジョン・ダワー博士の『敗北を抱きしめて』（1999年発行）を読み、メモを取っているうちに、私は、敗戦のとき生まれていた人も、その後に生まれた人も全ての日本人にとって、敗戦をどう受け止めるかは、現在およびこれからの私たちの生き方を決めるのではないかと思った。

私の話が、その問題をどれほど掘り下げられるか自信はありませんが、一緒に「日本の敗戦の問題」とこれからの私たちの問題を考えてみましょう。」

廣瀬方人

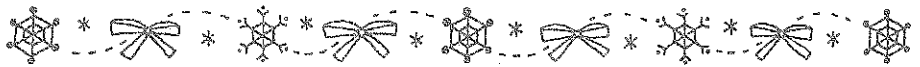
	<p style="text-align: center;">敗北を抱きしめて</p> <p style="text-align: center;">マサチューセッツ工科大学教授：ジョン・ダワー著 1999年米国で発行。2001年3月、日本語版発行（岩波書店） 上巻 371 ページ。下巻 429 ページ 計 800 ページ ノンフィクション部門でピューリッツァー賞</p>	
--	---	---

* 上巻裏表紙の言葉より：

1945年8月、焦土と化した日本に上陸した占領軍兵士たちが見出したものは、驚くべきことに、敗者の卑屈や憎悪ではなく、平和な世界と改革の希望に満ちた民衆の姿であった。

* 著者の「日本の読者へ」より：

日本は数ある敗北のうちでも最も苦しい敗北を経験したが、それは同時に、自己変革のまたとないチャンスに恵まれたということでもあった。「良い社会」とは何なのか。この途方もない大問題が敗戦の直後から問われはじめ、この国のすみずみで、男が、女が、そして子どもまでがこの問題を真剣に考えた。



～みんなのミーティング&

学習会（環境と平和）のご案内～

《1月》

- M M： 6日（土） 13：30～16：30 県民ボランティア活動支援センター
 平 和：13日（土） 13：30～16：30 県民ボランティア活動支援センター
 M M：17日（水） 18：30～21：30 県民ボランティア活動支援センター
 環 境：20日（土） 13：30～15：00 AIG長崎ビル「シビックホール」

《2月》

- M M： 3日（土） 13：30～16：30 AIG長崎ビル「シビックホール」
 M M：14日（水） 18：30～21：30 県民ボランティア活動支援センター
 環 境：17日（土） 13：30～15：00 AIG長崎ビル「シビックホール」

※県民ボランティア活動支援センター

長崎市出島町2-11 出島交流会館4階 TEL:095-827-4852

※AIG長崎ビル「シビックホール」

長崎市常盤町1-1 TEL:095-822-8161



メンバーズミーティング（MM）では環境問題だけでなく、身近な問題、悩み、幸せとは、生きがいとは、生きる意味とは、自分のあり方、生き方など、いろいろなことを話し合っています。仲間と自由に話し合うことで、新たな気付き、さまざまな情報が得られます。

どうぞ、MMにご参加ください。きっとやさしい生き方、自然な生き方が見つかります。MMは何でも話せる場、和気あいあいと語り合っています。

環境学習会（エコ・ワーク）では、過去に放送された環境に関する番組の録画を視聴し、事実を知り、感じたことを話し合います。参加者がつくるワークショップです。

初めての方も大歓迎！！気軽に参加くださいね。お待ちしております！！

えことびい長崎 http://www.geocities.jp/n_earth_v/index.html
 〒850-0946 長崎市川上町15-10 電話・FAX：095（827）5149
 Eメール：ymaiso@yahoo.co.jp

◎ホームページには“えことびい長崎”の情報が満載！！

みなさんぜひアクセスしてみてくださいね♪

掲示板の書き込みもお待ちしております！！

それでは 皆様よいお年をお迎えください。